

城戸かれんさん応援レポート

東京藝術大学 奏楽堂 モーニング・コンサート

2016年7月14日(木)

東京藝術大学奏楽堂

通い慣れた上野。「藝大生活のまとめ」の気持ちで

東京藝術大学奏楽堂モーニング・コンサート。「作曲、ピアノ、オルガン、弦楽、管打楽の各専攻科から選抜された優秀な学生がソリストとして、あるいは作曲家として、藝大フィルハーモニア(東京藝術大学管弦楽研究部)と共演し、質の高い充実した演奏を行う」ことを目的に開催されている。

昨年度の成績優秀者に演奏機会が与えられるというこのモーニング・コンサート、城戸さんは、湯浅卓雄先生の指揮で、ソリストとしてエルガーのヴァイオリン協奏曲を演奏する。

会場は東京藝術大学奏楽堂。藝大構内にある音楽ホールである。ホール全体を一つの楽器と捉えて設計されており、音響特性を使用目的に応じて変えられるよう、客席の天井全体を可動式にして音響空間を変化させることができる。本格的なパイプオルガンにも目を惹かれる。

管弦楽の藝大フィルハーモニアは、藝大に所属するプロフェッショナル・オーケストラ。オーケストラ演奏を専門とする演奏研究員によって組織されている。

様々な活動のなか、学生の演奏経験の拡充にも資しており、中でも、この「モーニング・コンサート」は選抜される学生の質の高さ、オーケストラとの十分な練習時間の設定など、非常に高度な水準を維持するなど、類を見ない企画となっている。



東京藝術大学 奏楽堂
モーニング・コンサート
Morning Concert

2016年度

11:00開演 (10:30開場) 東京藝術大学奏楽堂 (大学構内)
各回1,000円 (全席自由・入場整理券付付) ※入場券、入場整理券ともに1,000円です。全席自由席のため、ご希望の席へは事前にお申し込みください。

【チケット取り扱い】 前売券 ヴォーカル・チケットセンター TEL:03-5355-1280 <http://ticket.vocnet.co.jp/>
チケットぴあ TEL:0570-02-9999 <http://pia.jp/>
東京文化会館チケットサービス TEL:03-5685-0650 <http://www.tokyo-cg.jp/ticket/>
※チケットの購入は、上記の各窓口から可能です。チケットの購入は、上記の各窓口から可能です。

当日券 奏楽堂入口券売所 (10:00販売開始)
※当日券の購入は、当日の朝10時から可能です。当日券の購入は、当日の朝10時から可能です。

※東京藝術大学音楽学部・東京藝術大学演奏研究センター 050-5525-2300 東京藝術大学ホームページ: <http://www.geidai.ac.jp>

4月から藝大4年生となった城戸さん、「...上野に通い始めて早や7年、思い出の詰まった大学で、このような機会をいただけて、とても嬉しく思います。今回のコンサートは藝大生活のまとめ的な気持ちです」との、コメントが寄せられている。



気力と体力を尽くしエネルギーに大曲を弾く



本日城戸さんが弾くエルガーのヴァイオリン協奏曲は、演奏時間約50分。数あるヴァイオリン協奏曲の中でも最大級の規模の作品である。その長さゆえに、なかなか演奏機会もないそうだ。ネットには「・・・気力と体力の充実した、技術の確かなヴァイオリニストにしか弾けないでしょう」との解説も。城戸さん、大曲への挑戦だ。

通常のモーニング・コンサートに比べ、大きなプログラムとなった当日、猛暑日の暑い中、多くのお客様のご来場があり、「いやー、今日はすごいです」と受付の方もうれしい悲鳴。

演奏会スタート。最初はフルートの八木さん。魅力たっぷりにフルートの音色を響かせる。美しい曲だ。



演奏中写真のご提供：東京藝術大学

城戸さん登場。本日は黒を基調にきりりとしたドレス姿。オーケストラに溶け込む。

オーケストラのボリューム感あふれる演奏に続いて城戸さんのヴァイオリンが始まる。壮大なイメージの旋律を悠々と弾きこなす。

「厚みのある曲です。交響曲のような」「高貴な曲。哀しくても泣き叫ぶのではなく、背筋をピンと張って高貴さを保っている曲です。格調高いというイメージがあります」・・・エルガー自身がヴァイオリンを弾いたこともあり、超絶技巧が散りばめられている曲。敢えて難しい、親しまれていない曲を選ぶという心意気。

全3楽章。気力と体力を尽くした演奏。ひとつひとつの楽章を丁寧にエネルギーに。堂々と、まさに「高貴に」聴かせてくれた。ブラヴォーの声が飛ぶ。魅力たっぷりに聴衆を惹きつけた。

会場には財団もお世話になっている漆原朝子先生のお姿(お写真撮りそびれました・・・)。また、44回生坪井夏美さん、45回生毛利文香さんなど仲間のみんなも。



高貴で壮大なこの曲の良さを伝えられれば



終演後、楽屋でマエストロ湯浅先生(中央)・フルート八木さん(左)と

終演後の城戸さんに、話を聞いた。

ー エルガー、選曲への思い；

「・・・(師事している)漆原先生がよく弾かれている曲で、弾いてみたいなという気持ちがありました。先生から背中を押していただき、今回のチャレンジとなりました」王道の曲も好きですが、あまり弾かれない曲を弾きたいという思いがありました。コンツェルトの演奏機会をいただいても、自分で好きな曲を選ぶことができる機会はないので思い切って選びました」。

「・・・自分はこの曲が大好きなのですが、親しみやすい曲ではないので、曲が受け入れられるか心配な点も少なからずありました。でも、高貴で壮大なこの曲の良さが伝わればいいなと思いながら弾きました」

「・・・以前よりも『聴いてもらおう』という気持ち、『伝えるために弾いている』自覚が強くなりました」「・・・次に弾く機会があれば、こう弾きたい、身体に馴染ませてもっと・・・みたいな思いもあります」

<演奏会概要>

◆出演

指揮：湯浅卓雄

八木瑛子(FI)

城戸かれん(Vn) *

藝大フィルハーモニア

◆プログラム：

イベール：フルート協奏曲

エルガー：ヴァイオリン協奏曲 口短調 作品61 *

ー 演奏姿勢、ぴりりとして素敵でした；
「・・・身体がぶれないと弓と楽器の接点がずれることなく、いい音が出ることに気が、ころがけています。本番になると、オーケストラとのアンサンブルのためアクションを起こさなければならぬこともあり、難しいですが」

終演後のホワイエご挨拶では、多くの方々から祝福の言葉を受け、やり遂げた安堵感と充実感いっぱいの笑顔。

城戸さん、素敵な演奏でした。
また聴かせてください！



財団からのお花の前で

2016年度

東京藝術大学 奏楽堂 モーニング・コンサート Morning Concert



11:00開演 (10:30開場)

東京藝術大学奏楽堂 (大学構内)

各回1,000円

(全席自由：入場整理番号付き)

※就学前のお子様のお同伴・入場はできませんので、ご了承ください。
※入場は、入場整理番号順となります。前売券をお持ちの方から先に入場いただきます。

【チケット取り扱い】 前売券

ヴォートル・チケットセンター
チケットぴあ
東京文化会館チケットサービス

TEL:03-5355-1280 <http://ticket.votre.co.jp/>
TEL:0570-02-9999 (Pコード 288-591) <http://t.pia.jp/>
TEL:03-5685-0650 <http://www.t-bunka.jp/ticket/>

※「ヴォートル・チケットセンター」と「チケットぴあ」の入場整理番号については同一管理で付しています。

※購入後の払い戻し・変更等は、一切できません。

当日券

奏楽堂入口券売所 (10:00販売開始)

※前売券の販売実績により、取り扱いが無い場合がありますので、ご承知願います。
※消込待ちからの他席により、満席の場合には入場できません。

◆主催 東京藝術大学音楽学部・東京藝術大学演奏芸術センター

◆お問い合わせ：東京藝術大学演奏芸術センター 050-5525-2300 東京藝術大学ホームページ：<http://www.geidai.ac.jp/>

2016年度 東京藝術大学 奏楽堂 モーニング・コンサート

各回11:00開演 (10:30開場) 東京藝術大学奏楽堂 (大学構内)

各回1,000円 (全席自由: 入場整理番号付き)

※就学前のお子様のご入場はできませんので、ご了承ください。
※入場は、入場整理番号順となります。前売券をお持ちの方から先にご入場いただけます。

【チケット取り扱い】

前売券

ヴォートル・チケットセンター TEL:03-5355-1280 <http://ticket.votre.co.jp/>
チケットぴあ TEL:0570-02-9999 (Pコード288-591) <http://t.pia.jp/>
東京文化会館チケットサービス TEL:03-5685-0650 <http://www.t-bunka.jp/ticket/>
※「ヴォートル・チケットセンター」と「チケットぴあ」の入場整理番号については同一管理で付しています。
※購入後の払い戻し・変更等は、一切できません。

当口券

奏楽堂入口券売所 (10:00販売開始)

※前売券の販売開始により、取り扱いが無い場合がありますので、ご承知願います。新防疫からの指導により、満席の場合には入場できません。

◆管弦楽: 藝大フィルハーモニア (東京藝術大学管弦楽研究部)

東京藝術大学が独自の特別企画演奏会として行っているモーニング・コンサートは、作曲・声楽・ピアノ・オルガン・弦楽・管打楽の各科から選ばれた優秀な学生が、藝大フィルハーモニアとの共演により協奏曲などを演奏するものです。若き学生達の熱い演奏をご期待ください。

回数・日程・指揮者	出演者氏名	専攻	曲 目
第1回 4月28日(木) 指揮: 高関 健	鈴木 崇弘 横江 智至	Trb Pf	バストロンボーン (チューバ) 協奏曲 (J. ウィリアムズ) ピアノ協奏曲 第1番 ト短調 作品25 (メンデルスゾーン)
第2回 5月12日(木) 指揮: 現田茂夫	中島 夏樹 谷口 若菜	作曲 Pf	PIXEL for orchestra ピアノ協奏曲 第2番 ト短調 作品16 (プロコフィエフ)
第3回 5月19日(木) 指揮: 澤 和樹	大槻 健 松浦 恵	Cb Msop	コントラバス協奏曲 第2番 ロ短調 (ボッテシーニ) ヴェーゼンドンク歌曲集 (ワーグナー)
第4回 5月26日(木) 指揮: 迫 昭嘉	鶴田 麻記 千釜有美子	Trp Pf	トランペット協奏曲 変ホ長調 (ハイドン) ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品83 (ブラームス)
第5回 6月16日(木) 指揮: 山下一史	大橋 征人 横山 瑠佳	作曲 Pf	I was born ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品83 (ブラームス)
第6回 6月23日(木) 指揮: 高関 健	古谷 拳一 有田 朋央	Fg Va	ファゴット協奏曲 (ファンメル) ヴァイオリン協奏曲 Sz120 (バルトーク)
第7回 6月30日(木) 指揮: 高関 健	浦部 雪 岡本 誠司	作曲 Vn	Expantraction ヴァイオリン協奏曲 二短調 (ハチャトゥリアン)
第8回 7月14日(木) 指揮: 湯浅卓雄	八木 瑛子 城戸かれん	Fl Vn	フルート協奏曲 (イベール) ヴァイオリン協奏曲 ロ短調 作品61 (エルガー)
第9回 7月28日(木) 指揮: 迫 昭嘉	田中翔一朗 石川 優歌	作曲 Org	Seasons for orchestra 協奏的交響曲 作品81 (ジョンゲン)
第10回 9月8日(木) 指揮: 梅田俊明	高田 慧一 桑原 志織	Bar Pf	「エリア」より「アブラハムの神である主よ」他 (メンデルスゾーン) ピアノ協奏曲 第3番 二短調 作品30 (ラフマニノフ)
第11回 11月10日(木) 指揮: 山下一史	戸村 愛美 木本 秀太	Sax Pf	サクソフォーン協奏曲 (トマジ) ピアノ協奏曲 第3番 二短調 作品30 (ラフマニノフ)
第12回 11月17日(木) 指揮: 山下一史	倉澤 唯子 小林 杏成	Ob Vn	オーボエ協奏曲 イ短調 (ヴォーン=ウィリアムズ) ヴァイオリン協奏曲 第1番 イ短調 作品77 (ショスタコーヴィチ)
第13回 2月16日(木) 指揮: 高関 健	藤原 秀章 義田 莉奈	Vc Pf	チェロ協奏曲 (ウォルトン) ピアノ協奏曲 第2番 ト短調 作品16 (プロコフィエフ)

※スケジュール・曲目・出演者等は都合により変更となる場合がありますので、ご了承ください。

主催: 東京藝術大学音楽学部・東京藝術大学演奏芸術センター 所在地: 〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8
お問い合わせ: 東京藝術大学演奏芸術センター 050-5525-2300 東京藝術大学ホームページ <http://www.geidai.ac.jp/>

指揮者



© 佐藤英夫

◆高関 健 Ken TAKASEKI (第1回・第6回・第7回・第13回)

桐朋学園大学卒業。1977年カラヤン指揮者コンクール・ジャパンで優勝。ベルリンフィル・オーケストラアカデミーに留学後、カラヤンのアシスタントを務め、タングルウッド音楽祭でもバーンスタイン、小澤征爾らに指導を受けた。83年ニコライ・マルコ記念国際指揮者コンクール第2位。84年ハンス・スワロフスキー国際指揮者コンクール優勝。翌年、日本フィル定期演奏会で日本デビュー。これまで海外ではウィーン響、ベルリン・ドイツ響、ケルン放送響、オスロ・ノイール、ベルゲン・ノイール、ノラ放送響他を指揮。また2013年2月にはサンクト・ペテルブルグ・フィルに招かれ定期公演を指揮、好評を得た。広島交響楽団音楽監督・常任指揮者、大阪センチュリー響常任指揮者、群馬交響楽団音楽監督、札幌交響楽団正指揮者他を歴任。現在、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団常任指揮者、京都市交響楽団常任首席客演指揮者、東京藝術大学音楽学部指揮科教授。

◆現田茂夫 Shigeo GENDA (第2回)

東京音楽大学作曲指揮専攻で汐澤安彦、三石精一両氏に師事。その後東京藝術大学で佐藤功太郎、遠藤雅古両氏に師事。1985年安宅賞受賞。2009年より神奈川フィルハーモニー管弦楽団名誉指揮者。国内外の主要オーケストラ、ソリストとも数多く共演しており、故ロストロポーヴィチと皇后陛下の古希祝賀コンサート等では特に好評を得た。オペラ指揮者としても経験豊かで二期会他、錦織健プロデュースオペラの音楽監督で2年ごとに全国公演。アンサンブル金沢と金沢歌劇座・兵庫県立芸術文化センター他(5都市6公演)で「椿姫」。市川右近演出「夕鶴」の全国公演も行い好評を得ている。また、アントニオ・ペドロツィ国際指揮者コンクールの審査員や、NHK-FMラジオのパーソナリティを3年間務めるなどバラエティにとんだ活動を行なっている。



© 三浦祥一



© Osamu Usui

◆澤 和樹 Kazuki SAWA (第3回)

1979年、東京藝術大学大学院修了。「安宅賞」受賞。ロン＝ティボー、ヴェニエアフスキ、ミュンヘンなどの国際コンクールに入賞。イザイ・メダル、ボルドー音楽祭金メダル受賞などヴァイオリニストとして国際的に活躍。80年より文化庁在外研修員としてロンドンに派遣され、ジョージ・バウク、ペラ・カトーナ両氏に師事。84年に東京藝大に迎えられるとともに本格的な演奏活動を開始。89年には、文部省在外研究員としてロンドンの王立音楽院に派遣され、さらに研鑽を重ねた。この時期、アマデウス弦楽四重奏団メンバーとの出会いにより澤・クワレルットの結成を決意する。96より指揮活動を開始。九州交響楽団、東京フィル、日本フィル、札幌交響楽団、紀尾井シンフォニーエッタ等にも客演し、好評を博す。2004年、和歌山県文化賞受賞。現在、英国王立音楽院名誉教授、洗足学園音楽大学客員教授、大阪音楽大学客員教授。16年4月より東京藝術大学学長。

◆迫 昭嘉 Akiyoshi SAKO (第4回・第9回)

東京藝術大学大学院音楽研究科にてクワイター賞。ミュンヘン音楽大学マイスタークラス修了。ジュネーヴ国際音楽コンクール最高位、民音コンクール室内楽部門優勝、ハエン国際ピアノコンクール優勝。ABC国際音楽賞受賞。ピアニストとして国内外で活動する一方、指揮者としては1999年に九州交響楽団にデビュー。その後札幌響、群馬響、新日フィル、東京シティフィル、都響、神奈川フィル、名古屋フィル、京都市響、日本センチュリー響、関西フィル等を指揮して高く評価されるなど、この分野での動向にも注目が集まっている。現在、東京藝術大学音楽学部教授、東京音楽大学客員教授、洗足学園音楽大学客員教授。



© 三浦祥一

◆山下一史 Kazufumi YAMASHITA (第5回・第11回・第12回)

桐朋学園大学卒業後、ベルリン芸術大学に留学。1986年デンマークで開かれたニコライ・マルコ国際指揮者コンクールで優勝。85年12月からカラヤンのアシスタントを務め、ベルリン・フィル演奏会で急病のカラヤンの代役としてジーンズ姿のまま「第九」を指揮し話題となる。以降、ヘルシンボリ響首席客演指揮者、オーケストラ・アンサンブル金沢プリンスパル・ゲスト・コンダクター、九響常任指揮者、大阪音大ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団常任指揮者、2008年4月より同団名誉指揮者、06年から09年まで仙台フィルハーモニー管弦楽団指揮者、09年4月から12年3月までは同団正指揮者を務める。09年4月にはサンクトペテルブルク交響楽団定期に出演し、大成功を収めた。また、11年2月にはシューマン「ゲノフェューア」日本舞台初演や、13年1月には水野修孝の歌劇「天守物語」を行うなど、現在、オペラ、オーケストラの両面においてますます注目を浴びている。16年4月よりニューフィルハーモニーオーケストラ千葉音楽監督。東京藝術大学音楽学部指揮科招聘教授。

◆湯浅卓雄 Takuo YUASA (第8回)

高校卒業と同時にアメリカに留学。シンシナティ大学音楽院作曲理論科を経て、ウィーン国立音楽大学指揮科卒業。群馬交響楽団指揮者、BBCスコットランド交響楽団首席客演指揮者、アルスター管弦楽団首席客演指揮者を歴任。これまでにロンドン・フィル、フランス国立管、オスロ・フィル、ワルシャワ・フィル、アイルランド国立響、ブリュッセル・フィル、ベルリン響、ラハティ響、シドニー響、ニュー・ジャージーランド響、香港フィルなど世界のオーケストラを指揮。日本国内でも各主要オーケストラと共演。また、EMI、BBC、ABC、NAXOS等のレーベルから多数のCDがリリースされ、高い評価を得ている。2007年「井植文化賞」、08年国際ソロプチミスト「千嘉代子賞」現在、東京藝術大学、演奏芸術センター教授。



© 三浦祥一

◆梅田俊明 Toshiaki UMEDA (第10回)

桐朋学園大学卒業、同研究科修了。ウィーン国立音楽大学に留学。指揮を小澤征爾、秋山和慶、尾高忠明、ジャン・フルネ、オトマール・スイトナー各氏に師事。日本センチュリー交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団の指揮者を歴任。2000～06年仙台フィルハーモニー常任指揮者に就任。01年及び04年仙台国際コンクールにおいてはすべての協奏曲を指揮し、出場者や聴衆をはじめ国内外の審査員から絶賛を博した。南西ドイツ・フィルハーモニーやスロヴァキア・フィルハーモニーの定期演奏会に客演。現在はNHK交響楽団、読売日本交響楽団、東京都交響楽団、新日本フィルハーモニーをはじめ国内主要オーケストラと共演を重ねている。桐朋学園大学、東京藝術大学音楽学部指揮科非常勤講師。

【コンサート・フライヤー 裏表紙】

○モーニング・コンサートについて

東京藝術大学音楽堂モーニング・コンサートは、作曲、ピアノ、オルガン、弦楽、管打楽の各専攻科から選抜された優秀な学生がソリストとして、あるいは作曲家として、藝大フィルハーモニア（東京藝術大学管弦楽研究部）と共演し質の高い充実した演奏を行うことにより、若手音楽家の養成に寄与してまいりました。

本学は、今後も音楽教育・研究のさらなる向上を目指しており、その一環として、これまで約40年以上続いてきたこの歴史ある学生達の研鑽の場を、より一層高度化し発展させて参りますので、今後も引き続き、ご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



藝大フィルハーモニア（東京藝術大学管弦楽研究部）

Geidai Philharmonia, Tokyo

藝大フィルハーモニアは東京藝術大学に所属するプロフェッショナル・オーケストラであり、オーケストラ演奏を専門とする演奏研究員によって組織されている。

主な活動としては、毎年春と秋に開かれる定期演奏会、声楽科との合唱付オーケストラ作品の演奏、オペラ研究部との共演、年度始めの新卒卒業生（各科最優秀者）紹介演奏がある。その他、年末には恒例のメサイア演奏会、第九公演などを行っており、さらに各地の音楽文化向上のための出張演奏も行っている。

教育面では、音楽科、声楽学生との協奏曲等の共演および作曲科学生の作品演奏（モーニング・コンサート）、指揮科学生による演奏会・試験・演習など、学生の演奏経験の充実に資している。中でも1972年から開催されている、この「モーニング・コンサート」は、選抜される学生の質の高さ、オーケストラとの十分な練習時間の設定など、非常に高度な水準を維持しており世界にも類を見ない企画となっている。

このオーケストラの前身である旧東京音楽学校管弦楽団は、わが国初めての本格的なオーケストラであり、現在ではボピュラーに演奏されているベートーヴェン作曲「交響曲第5番『運命』」「交響曲第9番『合唱付き』」、チャイコフスキー作曲「交響曲第6番『悲愴』」などを本邦初演し、日本の音楽界の礎石としての活動を果たしてきた。長らく管弦楽研究部（藝大オーケ）の名で呼ばれてきたが、学内中心の演奏活動から、より幅広く活動の場を拡げ皆様に親しんでいただくために、1980年代にカナダから来日していた指揮者ビクター・フェルドブリス氏によって「藝大フィルハーモニア」と命名された。



【交通案内】

- JR上野駅（公園口）・JR有楽町線（南口）
東京メトロ千代田線根津駅より 徒歩10分
- 京成線有楽町線
東京メトロ日比谷線・銀座線有楽町線より 徒歩15分
- 台東区循環バス「東西めぐりん」
② 上野駅・上野公園から（東京芸術大学経由）
③ 東京芸術大学 下車【30分間隔】

※駐車場はございませんので、お車での来場はご遠慮ください
所在地：〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8

東京藝術大学 奏楽堂
モーニング・コンサート
Morning Concert

第 8 回
2016年 7 月14日(木)

指揮：湯浅卓雄
管弦楽：藝大フィルハーモニア

八木 瑛子（フルート）
J. イベール：フルート協奏曲

城戸かれん（ヴァイオリン）
E. エルガー：ヴァイオリン協奏曲 Ⅱ短調 作品61

11:00開演 東京藝術大学奏楽堂
主催：東京藝術大学音楽学部・東京藝術大学演奏芸術センター

◆八木瑛子（4年：フルート）Eiko Yagi

J. イベール：フルート協奏曲（演奏時間約18分）

1994年生まれ。9歳よりフルートを始める。

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、現在、東京藝術大学音楽学部4年在学中。東京藝術大学安宅賞受賞。

第62回全日本学生音楽コンクール 中学の部 第1位

第16回びわ湖国際フルートコンクール アドヴァンス部門 奨励賞、オーディエンス賞

第65回全日本学生音楽コンクール 高校の部 第3位

第25回日本木管コンクール 第1位、保科賞

第32回日本管打楽器コンクール 第3位

2013年度財ヤマハ音楽振興会音楽支援奨学生

2016年度より青山財団奨学生、明治安田クオリティオブライフ文化財団音楽奨学生

これまでに甲斐さち、阿部博光、浅生典子、疋田美沙子、大村友樹、斎藤和志、大平記子、細川順三、高木綾子の名氏に師事。

2014年、ヴィルクローズ国際音楽アカデミーにてジャック・ズーン氏に師事。

今年度秋より、ザルツブルグ・モーツァルテウム大学にてミヒャエル・マルティン・コフラー氏のクラスに留学予定。



ジャック・イベール（1890-1962）はフランスに生まれ、幼少期から母にヴァイオリンとピアノを教わる。1911年にパリ音楽院に進学し、和声法、対位法とフーガを学ぶ。第一次世界大戦では海軍士官に従軍したが、代表作の1つである管弦楽曲「寄港地」は、その頃の印象から構想を練っている。

初期はドビュッシーやラヴェルの強い影響を受け、平行和音を多用した印象主義的な作風をとったが、その後は「六人組」の影響を受け、やや擬古典的、戯画的な作風へと転じた。生粋のパリジャンであった彼の作風は、それらを折衷したうえに立脚した、軽妙でエスプリ漂うものである。

フルートの華麗な持ち味を巧みに生かし、独創的で機知に富んだこの曲は、1932-1933年に作曲され、名フルート奏者マルセル・モイーズ（1889-1984）に献呈された。モイーズとフィリップ・ゴッペル指揮のパリ音楽院管弦楽団によって1934年2月25日にパリで初演されている。

第1楽章 Allegro

ソナタ形式。技巧的でジグザグとした第1主題に始まる。表情豊かな第2主題ののち、再現部ではその二つの主題を同時に対位的に重ね合わせて再現する手法がとられている。

第2楽章 Andante

弱音機をつけた弦楽の精妙な和声とともに、独奏フルートの繊細で抒情的、典雅な響きと流麗な旋律に溢れている。再現部では独奏ヴァイオリンが主題を奏し、独奏フルートが16分音符で流暢に飾り、彩る。典雅な風情の中に、彼が印象主義を離れてロマン派に立脚したモダンイズムを志向していったことが伺える。

第3楽章 Allegro scherzando

快活な主題と、「寄港地」の第2楽章を思わせるようなエキゾチックな中間部の対照が見事である。短いカデンツァをもち、コーダで結ぶ。

体力的にも技術的にも音楽的にも難易度が高いこの曲を、今まで私は避けてきました。ですが、オーケストラと協演出来るという貴重な機会をいただいたので、今回の演奏会で挑戦することにしました。

練習して学んでいくうちに、イベールという作曲家とフルートの魅力を改めて感じ、その魅力を少しでもお伝えできよう、心をこめて演奏いたします。

（八木 記）

◆城戸かれん（4年：ヴァイオリン）Karen Kido

E. エルガー：ヴァイオリン協奏曲 口短調 作品81（演奏時間約49分）

1994年、東京都出身。

2010年、東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校在学中に、第14回松方ホール音楽賞、第79回日本音楽コンクール第2位を受賞。

2016年、カール・ニールセン国際ヴァイオリンコンクール第4位。

全日本学生音楽コンクール、ミケランジェロ・アバド国際ヴァイオリンコンクール（ミラノ）にて第1位、ジョルジュ・エネスコ国際コンクール（ブカレスト）にて特別賞を受賞。

小澤国際室内楽アカデミーはじめ国内外のセミナーで研鑽を積む中、いしかわミュージックアカデミーIMA音楽賞、カール・フレッシュアカデミー協会賞、ミュージックアカデミーInみやざき優秀賞及び特別賞を受賞する。日本フィル、東京シティ・フィル、バーデン＝バーデン・フィル、都響、宮崎国際音楽祭管弦楽団、オーデンセ交響楽団と共演。

8歳から東京音楽大学付属音楽教室にて三戸泰雄氏に、これまで、原田幸一郎、津原朝子、梶正文の各氏に師事。徳永二男、川崎雅夫、P.アモイヤル、田野倉雅秋の各氏の指導を受けている。

現在、東京藝術大学音楽学部4年在学中、学内にて福島賞、安宅賞を受賞。2014年度より江副記念財団奨学生。CHANEL PYGMALION DAYS 2016参加アーティスト。



© K. Miura

エドワード・エルガー（1857－1934）は英国を代表する作曲家で、一般的によく知られているものとして「威風堂々」や「愛の挨拶」などが挙げられますが、他にも交響曲やチェロ協奏曲、エニグマ変奏曲など魅力的な傑作をいくつも残しています。

本日演奏するヴァイオリン協奏曲も彼の傑作のうちの一つで、1910年、大ヴァイオリニストであるフリッツ・クライスラーの依頼を受けて作曲されました。長大すぎるせいか今日では演奏される機会が少なくなっていますが、まさにエルガー全盛期の頃の作品で、当時このヴァイオリン協奏曲の発表で彼は大成功を収めています。

同時代の他の作曲家の作品と同じように、自然や人を受容する気持ち、故郷を懐かしむ気持ちなどありとあらゆる感情、情景がこの作品からも溢れて感じられますが、エルガーの音楽について考える時に注目したいのは、彼の楽譜によく見られるNobilmente（気高く）という指示です。この言葉の意味が彼の音楽そのものを表しており、他の作曲家にない最も魅力的な部分であると思います。ロマンティックで様々な感情が壮大なオーケストレーションによって紡ぎ出されるものの、その感情は決して取り乱すことはなく、常にどこか凛としたものが一貫して存在していて、哀しみや苦しみさえも味わうかのような高貴さを持っている…英国人ならではのノブリティが音楽から香ってきます。

彼自身がヴァイオリンを演奏できたため、この協奏曲はヴァイオリン特有の技巧までもが濃厚なロマンに沿うかたちで繰り広げられ、オーケストラとともに一体となって音楽の起伏を創り上げる、言わば交響曲のような作品です。

第1楽章 Allegro

交響曲のようなオーケストラの充実した響きの中、独奏ヴァイオリンが悠々と登場します。説得力のある主題が度々繰り返され、心が激しく揺れ動いているかのように展開をみせます。聴き手の心を引き寄せたり遠ざけたりと、ロマンティックで濃厚な音楽が魅力的な楽章です。

第2楽章 Andante

オーケストラと独奏ヴァイオリンが一体となって少し切なさを含んだメロディーが幾度も迫り、徐々に哀しみに似た複雑な気持ちで心を満たしていきます。しかしどこかに、その気持ちを鎮めて味わいながら受け入れるような格調高さが感じられる深い緩徐楽章です。

第3楽章 Allegro Molto

独奏ヴァイオリンのほとばしるような技巧とオーケストラとの、ぶつかるような対話が渦を巻いて、躍動的に音楽が進んでいきます。オーケストラ付きの壮大なカデンツァがあり、独奏ヴァイオリンの訴えかけるような技巧的な旋律に対して、エルガー自身が考案した奏法「ピッツィカート・トレモロ」が背景のオーケストラに登場するなど、ある種の幻想的な世界に引き込まれます。また、カデンツァを終えると1楽章の始めの主題が時を経て回帰します。この全ての記憶が一気に蘇る瞬間の感動は、長大な作品でのみの醍醐味かもしれません。

スコアの表紙裏にスペイン語で“Aquí esta encerrada el alma de ……（ここに…の魂が封じられている）”と不思議な引用句がエルガーによって残されています。はたしてどのような意味を持つのか定かではありませんが、この作品に触れていると、そこに生命があるような、人生があるような気がしてなりません。また、音楽の持つ計り知れない巨大なエネルギーを感じます。そんなエネルギーを皆様と共有できる喜びを噛み締めつつ、エルガーの偉大な作品に敬意と愛を込めて、心から演奏したいと思います。

（城戸 記）

【コンサート・プログラム(裏表紙)】

指揮者：湯浅卓雄 Takuo Yuasa



高校卒業と同時にアメリカに留学。シンシナティ大学音楽院作曲理論科を経て、ウィーン国立音楽大学指揮科卒業。群馬交響楽団指揮者、BBCスコットランド交響楽団首席客演指揮者、アルスター管弦楽団首席客演指揮者を歴任。これまでにロンドン・フィル、フランス国立管、オスロ・フィル、ワルシャワ・フィル、アイルランド国立響、ブリュッセル・フィル、ベルリン響、ラハティ響、シドニー響、ニュージーランド響、香港フィルなど世界のオーケストラを指揮。日本国内でも各主要オーケストラと共演。また、EMI, BBC, ABC, NAXOS等のレーベルから多数のCDがリリースされ、高い評価を得ている。2007年「井植文化賞」、08年国際ソロプチミスト「千代子賞」現在、東京藝術大学演奏芸術センター教授。

藝大フィルハーモニア (東京藝術大学管弦楽研究部) Geidai Philharmonia, Tokyo

藝大フィルハーモニアは東京藝術大学に所属するプロフェッショナル・オーケストラであり、オーケストラ演奏を専門とする演奏研究員によって組織されている。

主な活動としては、毎年春と秋に開かれる定期演奏会、声楽科との合唱付オーケストラ作品の演奏、オペラ研究部との共演、年度始めの新卒業生(各科最優秀者)紹介演奏がある。その他、年末には恒例のメサイア演奏会。第九公演などを行っており、さらに各地の音楽文化向上のための出張演奏も行っている。

教育面では、器楽科、声楽学生との協奏曲等の共演および作曲科学生による作品演奏(モーニング・コンサート)、指揮科学生による演奏会・試験・演習など、学生の演奏経験の拡充に資している。中でも1972年から開催されている「モーニング・コンサート」は、選抜される学生の質の高さ、オーケストラとの充分な練習時間の設定など、非常に高度な水準を維持しており世界にも類を見ない企画となっている。

このオーケストラの前身である旧東京音楽学校管弦楽団は、わが国初めての本格的なオーケストラであり、ベートーヴェン作曲「交響曲第5番『運命』」「交響曲第9番『合唱付き』」、チャイコフスキー作曲「交響曲第6番『悲愴』」などを本邦初演し、日本の音楽界の礎石としての活動を果たしてきた。長らく管弦楽研究部(藝大オーケ)の名で呼ばれてきたが、学内中心の演奏活動から、より幅広く活動の場を拡げ皆様に親しんでいただくために、1980年代にカナダから来日していた指揮者ビクター・フェルドブリル氏によって「藝大フィルハーモニア」と命名された。



2016.6.23(木) モーニング・コンサート6より (指揮：高岡 健、Fg：古谷幸一、Va：有田朋央)

ソロコンサートマスター
野口千代光

首席コンサートマスター
北村 京子

第1ヴァイオリン
荒井 友美

生田 絵美
加藤えりな
金子 芳子
河野由里恵
佐原 敦子
菅谷 早葉
西田 史朗
前田 奈緒
増尾 朗子
山本 有紗

大学院・別科生出演者

第1ヴァイオリン
戸原 直

第2ヴァイオリン
浮村恵梨子

第2ヴァイオリン
清岡 優子

高島 浩
野田 良子

福井 彩花
福崎 雄也

マヤプレーザー
宮本 恵
村津 瑞紀

ヴィオラ
阿部 哲

安藤 裕子
植村 理一
福岡 弥生
竹村明希子
中川玲美子
吉田 篤
柘植 藍子

チェロ
伊東 裕

コントラバス
本山 耀佑

チェロ
寺井 創

豊田 庄吾
夏秋 裕一

羽川 真介
松本 卓以

山澤 慧

コントラバス
赤池 光治

倉持 敦
小室 昌広
杉原 茂範

○：コンサートマスター
(本公演)
□：首席奏者
□：本学教員
△：留学中

フルート
大澤 明子

湯本 洋司

オーボエ
岡 北斗

戸田 智子

クラリネット
高橋 聡子

濱崎 由紀

ファゴット
宮崎 寿理

依田 晃宣

ホルン
岡村 陽

堂山 敦史
梁川 笑里

トランペット
川田 修一

松山 萌

トロンボーン
菅原 薫

東川 暁洋

ティンパニ&パーカッション
井手上 達

二ツ木千由紀

インスペクター
高田 利英

南 浩之

ステージマネージャー
大澤 重彦

発行：2016年7月14日(木) 東京藝術大学
編集：東京藝術大学音楽学部
〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8
お問い合わせ：東京藝術大学演奏芸術センター
TEL 050-5525-2300
※無断転載・複写・引用などを禁じます